



# 学校だより

12月号

令和元年 12月2日  
横浜市立善部小学校  
校長 小澤 紀子

## 平和のとりでを築く

学校長 小澤 紀子

「校長先生。鶴を折ってくれませんか？」「学年みんなで千羽鶴を作っているのです。」  
6年生に声をかけられたのは、6月の頃でした。

6年生の国語の教科書に「平和のとりでを築く」という教材があります。自分の意見を持ち、根拠となる資料や出来事を示しながら説得力のある意見文を書くことが目標となる学習です。この「平和のとりでを築く」では、広島の実験ドームが市民の意見により保存されるまでと世界遺産に指定されるまでの経緯と意義がまとめられています。そして、この教材との出会いから次々に課題や活動が生まれ、広がっていきました。今回はその学習活動の一部をご紹介します。

「原爆ドームって知らなかった」「どうして原爆が落とされたのか知らなかった」「このドームを残そうと思ったことがすごいと思った」といったはじめの感想を話してくれました。そこから、「おばあちゃんに話を聞いて、戦争の恐ろしさを知った」「前に原爆ドームを見たことがあった」「実際に原爆ドームを見たらすごかった」となっています。

教材で学んだことから、実際に見たことと結びつき、さらにいろいろなことを調べていきます。資料館について調べ、そこに鶴を飾ってあるブースがあることに気づきます。さらに、一冊の本「貞子の千羽鶴」に出会います。そこで、自分たちにできることはないかと考え、友達と思いを共有し、「千羽鶴を自分たちで作って送ろう」と学年の友達に呼びかけました。平和について考え、戦争のない世界を願い、鶴を折って広島に届けたいとの思いに、学年の皆が賛成してくれたことがうれしかったと話してくれました。6先生全員で1,000羽。一人13羽の計算になります。はじめはできないのではないかなと思ったそうですが、鶴の輪はどんどん広がり、友達同士で教え合ったり、先生や家族にも声をかけたりして、鶴の数は増えていきました。そして夏休み前には1000羽になりました。「鶴を折っても実際に命を救えるわけではないけれど、誰かの気持ちをあたためることができたらうれしい。」「少しでも平和につながられるように発信していけたら。」「鶴を折れない人も教え合って折ってくれた。皆で協力できたこともうれしい。」「自分たちができることを、やることでできてよかった。」達成した後の感想です。その後、鶴に糸を通してつなげたり、送付先を調べたりと活動は続きました。

教材に出会ったことから、調べたり、人に聞いたり、実際に見たりする活動に広がりました。そこから自分の思いや願いをもつことができ、それを伝えることによって、さらに活動は広がっていきます。数名の思いから学年全体での取組へと広がっていったのです。数名の思いを受け止め、協力して成し遂げた子どもたちもすばらしいと思いました。自分の思いや願いをもつこと。具体的な行動として活動すること。発信すること。友達の思いや願いを受け止めること。協力してやり遂げる。本校の教育活動全般を通して身に付けさせたい力です。自分たちで課題を見つけ、解決の方法を考え、活動する、主体的な学びを6年生が見せてくれました。

みんなの思いや願いをのせて、千羽鶴は広島へ飛び立ちます。

「戦争は人の心の中で生まれるものだから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」(ユネスコ憲章より) 6先生の心の中にも、平和のとりでが築かれたかもしれません。

今年も後一月となりました。様々な場面でご支援いただき、本当にありがとうございました。急に寒くなりましたので、どうぞお身体ご自愛ください。